

重点施策		文化財の保護・活用の推進		評価実施者		所 属	社会教育課
				職・氏名		課長	景由隆寛

重点施策の概要	目 的	市民の財産である指定文化財を保存するとともに、それらを活用した講演会などの事業に取り組むなど、後世に文化財の魅力を伝える語り部の育成に取り組みます。					
	今年度の主要事業	北海道人造石油株式会社滝川工場の市文化財の指定					

事業の目標と実績	区 分		単位	H23	H24	H25	特記事項	
	1	指定文化財登録数	目標 実績	件	9 7	9 7	9 8	北海道人造石油株式会社滝川工場資 8番目の指定文化財となる
	2	華月館・屯田兵屋来館者延人数	目標 実績	人	1,009 721	1,009 1,441	1,009 297	
	3	太郎吉蔵来館者数	目標 実績	人	6,598	9,440	13,962	華月館 H23 534人、H24 1,178人、H25 69人 屯田兵屋 H23 187人、H24 263人、H25 228人
	4		目標 実績					

事業の分析 効果の検証	平成25年3月、公益社団法人日本化学会「化学遺産」の認定を受け、指定文化財の可否について文化財保護審議会に諮問し、可であるとの答申をいただいた。これを受け、12月に8番目の市文化財に指定した。関連して、美術自然史館で特別展を開催し、多くの方に興味をもっていただき、人石についての歴史的価値を知っていただく機会となった。
課題	指定文化財である華月館、屯田兵屋、牧羊用石造りサイロなど、郷土学習でも活用してもらえるよう工夫が必要。保存だけではなく、活用する方法もしっかり組み立てなくてはならない(華月館は、これまで市民会館の指定管理にあわせて管理していたため、ほぼ毎日開館していたが、平成25年度から直営となり、5月から9月まで月1回の公開となった)。

評価	A	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 市文化財に指定したことにより、市民の人石資料への関心も高まり、期待どおりの効果があった。
		評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 今後も郷土資料に光をあて、その価値を評価する取り組みを進めていくとともに、活用方法について考えたい。

【評価の区分】

A: 期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する
 B: ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある
 C: 概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である。
 D: 期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要

事業の今後の方向性	今後も「まちの財産」が消失しないよう、文化財として価値のある資料に光をあて、保存・普及していく。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	---

◎外部評価委員の評価・意見等

点検・評価に関するコメント	郷土館にもう少し予算を組んで力をいれてもらいたい。 市史編さんは、記録を残すことは重要。最後の編さんからかなり年数が経っている。
---------------	---